

東日本大震災により、犠牲になられた方々にご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

また、被害にあわれた方々に、謹んでお見舞い申し上げます。1日も早い復興を、心よりお祈りいたします。

BFSニュースレター

発行者 びとファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2011年12月1日発行

Vol. 31, 第31号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

資産運用の成否は、気持ちの持ち様が深く関わる

株式市場や金融市場では、ほとんど毎日、GDP、景気動向指数、失業率、物価上昇率などの経済指標が発表され、それによって、株価や金利、為替レートなどが動きます。そのため、経済指標が、株価や金利、為替レートに直結して動くように捉えるのですが、よく考えますと、株価や金利、為替レートが動くのは、人間が売ったり買ったりするからです。数字が一人歩きするわけでは決してありません。

そこで、ここ数年、人間の投資心理の研究が進み、投資成果には、その人の気持ちの持ち様が深く関わっていることが、判明してきました。

人間の気持ちは、ほとんどの人が「下がる」と悲観的になり、また恐くなり、損が気になって夜も寝られない。上がりだすと今度は強気になり、どんどん高値を買いにいこう」となる傾向があります。

そこから出てくる行動は「安くなってくると、もっと下がるのではないかと恐くなって売ってしまう、安く買えるのに買わずに終わる。」「上がってくると、強気になってもっと上がると思い、高くても抵抗なく買いにいこう」という行動、すなわち「高く買い、安く売る。」になります。これをしていたら、いつまでたっても、本来あげられる利益は上がりません。ところが、人間の投資行動は、こういう利益が上がらない方向に行きがちなのです。

「人はなぜお金で失敗するのか」という有名な本があるくらい、人間の投資心理は、もともと投資で利益が上がりにくくできているのです。これは、よく覚えておくべきことです。ニュートンやマーク・ウェインも、株では大損したそうです。

それでは、本来の資産運用に臨む姿勢は、どうあるべきか。それは「安くなったら買い、高くなったら売る、または持ち続ける。」ということです。人間が陥りが

ちな投資行動の逆を行くといってもよいでしょう。これができれば、資産運用は、ほぼ間違いなく、成功を収めるでしょう。株価や金利は人間が動かし、資産運用の成功は、「気持ちの持ち様」にかかっているということです。

世界最高の投資家ウォーレン・バフェットが、CNNのインタビューで(それをやっているメディアに対し)こういっていました。「見出しのことなど、忘れる。マーケット・ストーリー(経済・金融などの見通し)など、忘れる。」しかし、これがなかなかできないのが、人間です。どうしても、ユーロ危機の見出しや毎日の市場の上げ下げやコメントが気になって、ほとんどの人が、無意識に「フラミンゴ・ダンス」のような行動をして、安くなって恐くなって売り、高くなると強気になって買ってしまおうのです。



実は、自分の金がかかってくると、冷静さを失うのです。そこに、専門知識と経験の豊富な第三者の助言が入ってくると、自分の感情や心理から離れた冷静な行動や判断ができます。

ノーベル経済学賞受賞のウィリアム・シャープは、「個人投資家は、アドバイザーを業務とする投資の専門家からアドバイスを受けることがもっとも望ましい」といっています。

日本の若者よ、目を覚ませ!

吉祥寺ユニクロの店員は、半分以上がアジアを中心とする外国人とのこと。片言の日本語で、元気にお客の対応に走り回っているそうです。また、ある人材紹介会社の社長の話では、外資系の日本法人の採用は、8割が外国人とのこと、実に、日本の若者の存在感が薄いのです。人材の流れも、音を立てて変わってきているようです。こういう流れは無視できません。

一方、日本の企業もどんどんアジアへ進出して、現地法人の地元新卒者採用に、熱心に取り組んでいます。イオンのように、日本での採用も、外国人を積極的に採用している企業もあります。来春の内定者2000人のうち400人は外国人とのこと。また、2020年には本社社員の半分は外国人にする目標を持っています。

さて、日本の来年卒業の大学生の就職内定率は、60%を切っている状態です。上のような状態をみると、これからも、日本の学生の就職は、非常に厳しいものがあり、そもそも、ゲームの土壌が変わっているという印象です。



「就職できなくなるから、海外留学には行かない」などと、本末転倒の理屈をならべるより、これからは、若者はどんどん海外に出て、研鑽を深め、ネットワークをつくり、外に打って出るくらいの気概を持たないと、日本の先細りは間違いないという変な確信を持っています。

今月の言葉:

後世畏るべし。焉(いづく)んぞ来者の今に如かざるを知らんや。一論語 子罕第九

一青年は恐るべきだ。これからの人が今[の自分]に及ばないなどと、どうして分かるものか。



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

【お知らせ情報】

日本経済新聞12月7日(水)朝刊M&I(Money & Investment)欄にて、びとうファイナンシャルサービス、尾藤 峰男のコメントが掲載される予定です。

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

米国の企業業績は最高水準-ユーロ危機の様相とはずいぶん違う

米国の証券会社によると、主要500社の第3四半期(7~9月)利益は、史上最高の決算となり、リーマン・ショック前のレベルを超えたとのこと。売上の拡大も伴っていて、500社全体で2桁の売上増になっているとのこと。

たとえば、ボーイングとエアバスが、両社とも今後7年間の受注残を抱え、アマゾンやアップルの売上は前年比50%増、またぜいたく品のティファニー、高級ファッションのラルフローレンも、絶好調の決算を発表しています。



企業業績は、ちまたでいわれる不況入りの様相は全くありません。メディアや新聞紙上では、欧州危機や米国の景気悪化というような論調が幅を利かせていますが、企業活動は大変堅調です。いまは、その時々的情勢を追いがちなメディアに左右されることなく、企業本来の価値から大幅に安くなっている銘柄を探し出す、絶好のチャンスと見るべきです。

一方で、米国市場では、世界的な株式市場の逆

風下、最高値更新の“超”グローバル企業がぞろぞろ出てきています。たとえば、IBM、マクドナルド、ビザ、フィリップ・モリス、ナイキなど。こういう銘柄があることは、メディアからは、なかなか知られません。

ところで、私ども、びとうファイナンシャルサービスがおすすめる銘柄は、以下のような選択基準から、世界中から選んでいます。

- ・ 世界的に競争力、マーケティング力、価格決定力が強い。
- ・ マーケット・シェアが高い。
- ・ 過去の業績が、着実に伸びている。(キャッシュフローがプラス)
- ・ 営業利益率が高く、さらに改善傾向である。
- ・ 配当金が毎年増えている。今後も安定して増える可能性が高い。
- ・ 自社株買いに積極的である。
- ・ コーポレート・ガバナンスがしっかりしていて、経営能力が信頼できる。
- ・ 株価が割安である。

このような銘柄を、業種、世界の地域などに広く分散して持ちますので、一時的に下げることもあっても、総じて、安定した運用になります。